

人手補う外国人五輪工事も

東京五輪に向けて工事が進む神奈川県の高速度道路建設現場。約15人の作業員が



多民社会

コンクリートを棒に流し込んでいた。ヘルメットの名にはカタカナが目立つ。「この現場にベトナム人は3人。欠かせない存在です」。コンクリート庄送金社「ヤマコ」関東支店の小島秀二郎副支店長は現場を見回して言った。従業員約200人のうち

ベトナム人の技能実習生らが22人。現在は年10人ほど同国からの技能実習生を雇う。将来的には全体の3割にする計画だ。背景にあるのは、人手不足だ。同社は毎年20人はと求人するが、応募は多くて10人弱。1人も応募がない年もあった。

建設業は、政府が来春の導入を目指す新しい在留資格「特定技能」の受け入れ対象に検討されている。認められれば5年間の技能実習に加えさらに5年間の在留が可能になる。「会社を担う若手が育たない中、技能を身につけた頃に帰国してしまうのが課題だ」とも訴える。

新しい在留資格の創設を歓迎する小島さんだが、これからも彼らに日本で働いてもらえら、心配している。日本で働いていた中国人が、中国の経済成長につれて減ったのを肌で感じてきたからだ。「今は日本が先進技術を持ち、カネも稼げると見られている。だがベトナムも発展のスピードは速い。いずれ選ばれなくなるかもしれない」

(日本書介)

日本は「選ばれる国」か

人口減少と高齢化、そして現役世代の減少にさいなまれている国は、日本だけではない。世界的規模での人材争奪競争は、すでに始まっている。日本は「選ばれる国」なのか。

ベトナム出稼ぎ 人気は台湾

ひなびた農村とは似合わない立派な家を通りに並ぶ。ベトナムの首都ハノイから車で2時間。フートー省ビョンライは、外国への「出稼ぎ村」だ。豪華な家屋と裏腹に人通りは少ない。人口の3分の1の2900人、特に35歳以下の若者の多くが外国で働く。「うちは台湾、隣は韓国。あつちは日本だ」と住民が近所の家々を指さした。それぞれ、建設費を稼

いだ場所だという。村では20年前からドイツやロシアへの出稼ぎが始まった。近年人気なのは台湾。日本や韓国も続く。**中東・東欧へも**ベトナム政府の統計によると、同国から外国へ向かった労働者(日本の技能実習生を含む)は、2017年だけで13万4751人。ベトナム当局は送り出し先を中東や東欧にも広げる方針だ。

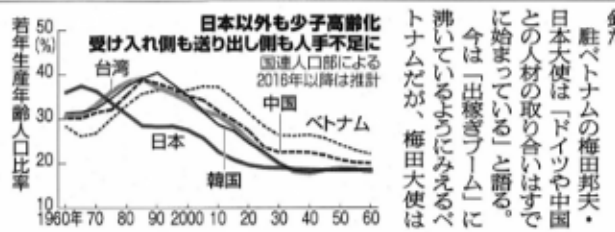
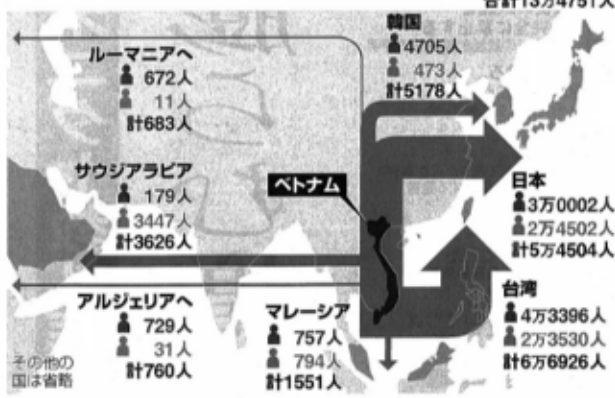
「5年、10年経てはベトナムでも高齢化が進み、介護などの需要が増える。いつまでも今のようにはいかないだろう」と言う。日本での技能実習の経験者の中には、苦い記憶を口にする人も多い。ハノイ在住のチュオン・マイン・ザップさん(28)は、14年まで技能実習生として広島島の

船舶部品用の鋳型などを造る工場に働いた。「日本語がわからないと殴られる」。先に日本に行った兄に言われ、日本語を猛勉強して雇うつもりだった。だが現場で働く専門の日本人が話す方言や専門用語がわからない。寮には冷房がなく、同僚4人が失脚したという。「つらくても、日本のおかげでステップアップできた」と感謝している」と今は振り返るが、「もっとと協力

して、問題の解決に動いてほしい」とも訴える。梅田大使は、こうした現状を、両国関係の「根幹に関わる問題」と指摘する。将来にわたって働き手を得るには、外国出身者を確保するのではなく、日本で生活しやすくする政策が肝要だと言う。「新しい在留資格では、家族帯同を認めるべきだ。別居した夫婦の離婚が増え、家族が崩壊しかねない」

(山本書介)

2017年にベトナムから送り出された労働者 男性計 8万1411人 女性計 5万3340人 合計13万4751人 出典:ベトナム海外労働管理局調べ、日本は技能実習生を含む



「使い捨て」しない国に 視点

「外国人に選ばれる国をめざす」と菅義偉・官房長官はいう。他国との人材獲得競争には何が必要か? 移民を分析する時、国際機関などは二つの視点から見る。フロー(流入)とストック(滞在)。どんな人をとれただけ入れるか。そして、どう社会の一員として受け入れ、統合するか。

日本政府に欠けているのはストックへの視線だ。2001年の米同時多発テロの直後、パリ郊外にイスラム過激派を礼賛する若者たちの姿があった。フランスに生まれ育った移民の2世、3世だ。進学も就職もうまくいかない。取材で浮かび上がったのは「社会の一員になりたいの

に拒まれてる」という切ない思いだった。英国で移民系の若者がテロに走った時は「多文化主義」への批判が出た。移民の文化に干渉しないという「寛容」の実態は、無関心と交差した。だから狂信者の接近を見逃したのではないかと反省する。

移民受け入れて先行してきた欧州の試練も、やはりストック面にある。日本政府はその負担を極力避けるため、外国人をいすれ帰国する「出稼ぎ」と位置づける。「移民政策はとらな」と繰り返す。フローの視点のみで乗り切ればよいという考えだろう。だが、それは非人道的なばかりか非現実的だ。英国で移民の境遇を調べた時、日本の非正規雇用の人と重なると感じた。将来

が不安定で、家族とも暮らせない雇用の調整弁。日本は「移民は不要」といながら同胞を「疑似移民」にしてきたのではない。日本人でも外国人でも人を労働力としてだけ見て「使い捨て」する国は「選ばれる国」にはなれない。日本の危機は単なる人手不足ではなく、深刻な少子高齢化だ。この国の生活や仕事になじんだ人を手放す余裕などない。

(編集委員・大野博人)